

第11表 遮光

(S52年6月20日挿)

項目 試験区	着生子苗			母本1 本当り 増殖数
	本数 計	重量 計	平均 重	
黒寒冷紗 1枚	80本	324g	4.9g	2.7本
" 2枚	81	348	4.3	2.7
" 3枚	86	367	4.3	2.9
" 4枚	94	323	3.4	3.1

## 6 リンドウの仕立本数 (園試野菜花き部)

### (1) 背景

本県のリンドウ栽培は近年、転作作目として注意され、急激な伸びを示している。しかし、収穫年次が経過するにつれ、株立本数が多くなりすぎ、下位等級の割合が多くなるのが問題となっている。品質向上を目的とした茎の仕立方法を検討した結果、慣行に比べ明らかに上位等級が多いことが判明した。リンドウの栽培基本技術改善の一環として、着花節数が多いなど商品価値の高い生産をあげるための技術を普及するため指導上の参考とする。

### (2) 技術内容

1株当り茎数15本以上の株について草丈30cm程度の時期(5月下旬)に生育の良い茎5本程度残し、他は先端を摘心する。

### (3) 指導上の留意点

- 1) 摘心はハサミ等の刃物を使用せず、手で先端を折り取る。
- 2) 摘心すると側枝が伸び繁茂するため、薬剤散布は内側にも薬液がよく付着するように丁寧に行う。

### (4) 試験成績の概要

- 1) 試験課題名                      リンドウ間引き試験
- 2) 試験年次および場所      昭和52～53年 岩手県園芸試験場野菜花き部
- 3) 試験方法

① 供試条件

- i 草丈10 cm時7本仕立区：株当り7本残して，他は根元より間引く。5本収穫  
ii " 30 " 5 " : " 5 " 他は先端を摘心する。5 "  
iii " 30 " 7 " : " 7 " " " 7 "  
iv " 50 " 5 " : " 5 " " " 5 "  
v " 50 " 7 " : " 7 " " " 7 "  
vi 慣行区：放任としS以上を収穫する。

注) 処理は，i区は昭和52.4.22 ii・iii区は昭和52.5.23  
iv・v区は昭和52.6.8に行い，昭和53年度は各区共，放任状態  
で後影響を調査した。

② 供試品種 AZ2・1・30S×HON7S(早生系)

注) AZ：福島県吾妻産のものより選抜したもの。

HON：長野県から導入した北海道系より選抜したもの。

S：自殖，数字は系統番号を示す。

③ 耕種概要

は種期 昭和49年5月8日

定植期 昭和50年5月12日

栽植距離 畦幅120 cm，株間15 cm，2条植(10 a当り11,111株)

4) 試験結果

昭和52年

① 摘心割合

ii・iv区の5本仕立区が株立本数の75%，i・iii・v区の7本仕立区が60～65%  
程度の摘心割合であった。

② 開花時の性状

草丈では，iv草丈50 cm時5本仕立区以外は処理区がvi慣行区より高く，特にi草丈10  
cm時7本仕立区，ii草丈30 cm時5本仕立区が高かった。節数ではi草丈10 cm時7本仕  
立区が多い他は同程度であった。茎の太さ，着花節数，着花数においてもi～vの処理区  
はvi慣行区に比べ優さっており，i草丈10 cm時7本仕立区，ii草丈30 cm時5本仕立区  
の順にその傾向が顕著であった。

③ 収量

品質別収穫本数においてiv草丈50 cm時5本仕立区以外は処理区がvi慣行区に比べ，L  
本数が多くM・S本数は少なくなる傾向が認められた。特にi草丈10 cm時7本仕立区，  
ii草丈30 cm時5本仕立区はL本数がvi慣行区の2倍以上であった。

品質別収穫割合では，i草丈10 cm時7本仕立区，ii草丈30 cm時5本仕立区はL・M  
率が高く，iii草丈30 cm時7本仕立区，iv草丈50 cm時5本仕立区，v草丈50 cm時7本

仕立区、VI慣行区はM・S率が高い傾向がみられた。

一本当りの平均重でもIV草丈50cm時5本残区以外は各等級共に処理区が重く、特にI草丈10cm時7本仕立区、II草丈30cm時5本仕立区が重かった。

昭和53年

① 株立本数

株立本数の対前年比においてVI慣行区より低い区は、I草丈10cm時7本仕立区のみで他区は20～30%増加率であった。

② 生育調査

前年度の処理時期・方法による明らかな傾向は認められなかった。

③ 収量

II草丈30cm時5本仕立区が、VI慣行区に比べL・M本数がやや多い他は、明らかな傾向は認められなかった。

以上の結果、前年度の処理による上物本数の多かった、I草丈10cm時7本仕立区、II草丈30cm時5本仕立区のうち、I区は次年度の株立本数の増加率が低下する傾向が認められた。従って仕立方法は草丈30cm程度の時期に、株当たり5本残して他は先端を摘心する方法が次年度への影響が少ない点からも適していると思われる。

(5) 主要成果の具体的データ

昭和52年

第1表 摘心割合

試 験 区	項 目	株立本 数 (本)	摘心本 数 (本)	収穫本 数 (本)	未収穫 本数(本)	摘心割 合 (%)
I	草丈10cm時7本仕立区	18.9	11.9	5.0	2.0	62.9
II	30 " 5 "	21.2	16.2	5.0	0	76.5
III	30 " 7 "	16.9	9.9	7.0	0	58.6
IV	50 " 5 "	20.0	15.0	5.0	0	75.0
V	50 " 7 "	19.7	12.7	7.0	0	64.5
VI	慣 行 区	18.4	—	7.7	10.7	—

第2表 生育調査

試験区	項目	草丈 (cm)		節数 (段)		茎の太さ (mm)	
		6月9日	7月4日	6月9日	7月4日	6月9日	7月4日
i	草丈10cm時7本仕立区	59.6	80.8	22.9	28.2	3.7	4.4
ii	" 30 " 5 "	64.4	82.7	22.5	27.7	3.7	4.2
iii	" 30 " 7 "	54.2	75.9	21.8	27.7	3.4	4.2
iv	" 50 " 5 "	51.0	70.9	22.0	27.1	3.1	3.7
v	" 50 " 7 "	55.8	79.3	22.2	27.6	3.3	4.2
vi	慣行区	56.5	78.1	22.2	27.5	3.1	4.1

第3表 開花時調査

8月15日調査

試験区	項目	草丈 (cm)	節数 (節)	茎の太さ (mm)	着花節数 (段)	着花数 (個)
i	草丈10cm時7本仕立区	95.0	29.0	4.4	4.7	23.7
ii	" 30 " 5 "	95.6	27.2	3.9	4.2	22.5
iii	" 30 " 7 "	87.5	27.6	3.6	4.0	19.3
iv	" 50 " 5 "	82.2	27.2	3.3	3.5	19.2
v	" 50 " 7 "	90.6	27.1	3.5	4.1	20.5
vi	慣行区	87.3	26.8	3.3	3.5	18.2

第4表 収量調査 (20株当り)

試験区	項目	L		M		S		S S		合計	
		本数	重量	本数	重量	本数	重量	本数	重量	本数	重量
i	草丈10cm時7本仕立区	34	1,979	35	1,516	25	863	6	165	100	4,523
ii	" 30 " 5 "	34	2,013	33	1,404	27	875	6	130	100	4,422
iii	" 30 " 7 "	18	860	42	1,610	59	1,584	21	398	140	4,452
iv	" 50 " 5 "	10	487	30	1,025	48	1,340	12	220	100	3,022
v	" 50 " 7 "	21	940	49	1,922	58	1,718	12	248	140	4,828
vi	慣行区	15	700	48	1,695	80	2,165	11	179	154	4,739

注) L……草丈70cm以上, 着花節数5段以上のもの

M…… " 60 " " 4 "

S…… " 50 " " 3 "

SS…… " 40 " " 2 "

第5表 a 当り収穫本数と一本当り平均重量

試験区	項目	a 当り収穫本数					一本当り平均重量(g)				
		L	M	S	SS	計	L	M	S	SS	計
I	草丈10cm時7本仕立区	1,889	1,944	1,889	333	5,555	58.2	43.3	34.5	27.5	45.2
II	" 30 " 5 "	1,889	1,833	1,500	333	5,555	59.2	42.5	32.4	21.7	44.2
III	" 30 " 7 "	1,000	2,333	3,277	1,167	7,777	47.8	38.3	26.8	19.0	31.8
IV	" 50 " 5 "	555	1,667	2,666	667	5,555	43.7	34.2	27.9	18.3	30.2
V	" 50 " 7 "	1,167	2,722	3,221	667	7,777	44.8	39.2	29.6	20.7	34.5
VI	慣行区	833	2,667	4,444	611	8,555	46.7	35.3	27.1	16.3	30.8

第6表 品質別本数対慣行区比と収穫割合

試験区	項目	対慣行区比					収穫割合				
		L	M	S	SS	計	L	M	S	SS	計
I	草丈10cm時7本仕立区	227	73	31	55	65	34	35	25	6	100
II	" 30 " 5 "	227	69	34	55	65	34	33	27	6	100
III	" 30 " 7 "	120	87	74	191	91	13	30	42	15	100
IV	" 50 " 5 "	67	63	60	109	65	10	30	48	12	100
V	" 50 " 7 "	140	102	72	109	91	15	35	41	9	100
VI	慣行区	100	100	100	100	100	10	31	52	7	100

昭和53年

第7表 株立本数対前年比

試験区	項目	収穫本数	未収穫本数	株立本数	前年株立本数	対前年比
I	草丈10cm時7本仕立区	5.9	13.4	19.3	18.9	102
II	" 30 " 5 "	7.5	17.7	25.2	21.2	119
III	" 30 " 7 "	7.0	15.1	22.1	16.9	131
IV	" 50 " 5 "	7.1	17.6	24.7	20.0	124
V	" 50 " 7 "	7.7	17.3	25.0	19.7	127
VI	慣行区	6.7	14.3	21.0	18.4	114

第8表 生育調査

試験区	項目	草丈 (cm)		節数 (段)		茎の太さ (mm)	
		5月23日	6月28日	5月23日	6月28日	5月23日	6月28日
	I 草丈10cm時7本仕立区	45.3	86.8	16.0	24.0	0.39	0.43
	II " 30 " 5 "	49.5	92.9	16.3	24.2	0.39	0.41
	III " 30 " 7 "	45.8	87.4	16.6	24.0	0.38	0.41
	IV " 50 " 5 "	46.4	87.1	16.5	24.6	0.39	0.41
	V " 50 " 7 "	48.1	91.9	16.9	24.8	0.41	0.42
	VI 慣行区	46.9	89.1	16.5	24.4	0.40	0.41

第9表 収量調査(20株当り)

試験区	項目	L		M		S		計		未収穫 本数
		本数	重量	本数	重量	本数	重量	本数	重量	
	I 草丈10cm時7本仕立区	4	173 <sup>♀</sup>	29	995 <sup>♀</sup>	84	2,499 <sup>♀</sup>	117	3,667 <sup>♀</sup>	268
	II " 30 " 5 "	7	275	48	1,656	94	2,848	149	4,779	354
	III " 30 " 7 "	4	154	35	1,244	100	2,895	139	4,293	302
	IV " 50 " 5 "	5	177	29	982	108	2,911	142	4,070	352
	V " 50 " 7 "	4	173	31	1,114	118	3,446	153	4,733	346
	VI 慣行区	4	154	29	1,018	100	2,975	133	4,147	286

第10表 品質別本数対慣行区比と収穫割合

試験区	項目	対慣行区比				収穫割合			
		L	M	S	計	L	M	S	計
	I 草丈10cm時7本仕立区	100	100	84	88	3	25	72	100
	II " 30 " 5 "	175	166	94	112	5	32	63	100
	III " 30 " 7 "	100	121	100	105	3	25	72	100
	IV " 50 " 5 "	125	100	108	107	4	20	76	100
	V " 50 " 7 "	100	107	118	115	3	20	77	100
	VI 慣行区	100	100	100	100	3	22	75	100